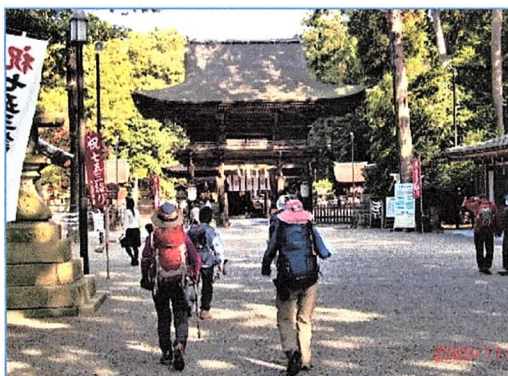
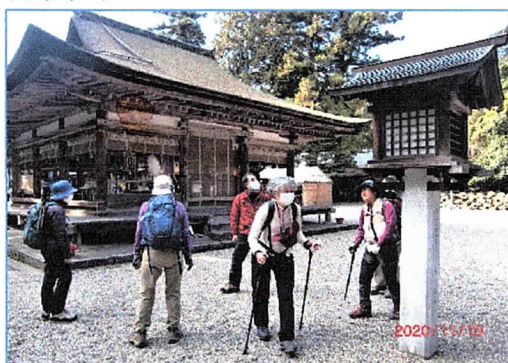


三上山 と 安土城跡

(写真 1)

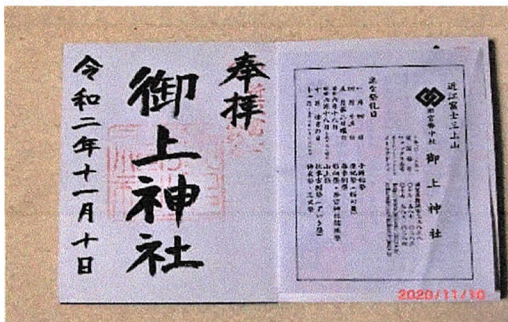


(写真 2)



御上神社駐車場に到着後、
先ずは安全祈願

(写真 3)



御上神社の御朱印

(写真 4)



いよいよ山行
(左側--三上山 右側--女山)

※山行日 ----- 2020年11月10日(火)

※メンバー ----- 弥生班 8名

※コース

・岩出図書館	出発	6:30
・御上神社駐車場	着	9:45
(山行)		
・御上神社 参拝		9:50
・三上山表登山道	入口	10:10
・三上山裏登山道	下山	13:15
・御上神社駐車場	着	13:20

(車で移動)

・安土城跡 散策		14:30~15:40
・安土城跡駐車場	出発	15:50
・岩出図書館	到着	19:30

※すっかり肌寒くなった11月、防寒服が必要な時期となりましたが、空気が澄み山行時は心地好い汗をかき、足も軽やかになる、今日この頃であります。

今回は、立ち姿から近江富士と呼ばれている「三上山」と「安土城跡」を散策しました。

※「三上山」編

・三上山は標高432mの低山ですが、富士の山容で美しく歴史も古く、「古事記」などにも記述が見られ、紫式部をはじめ和歌にも詠まれた由緒ある山。

また「俵藤太(たわらのとうた)の百足退治」伝説の舞台になったことでも知られており、「近江富士」の他にも「ムカデ山」という異名もあるそうです。

(参考)「俵藤太の百足退治」伝説

俵藤太こと藤原秀郷は、天慶3年(940)の平将門の乱の討伐で知られる。彼が瀬田唐橋に現れた大蛇に頼まれ、三上山に住む百足を成敗したという伝説

・今回は三上山を神体山として祭る「御上神社」に駐車し三上山の表登山道から登り、裏登山道へ下る周回コースを楽しみました。

・地元を6時30分に出発し、渋滞の中3時間強で現地に到着。先ずは、「御上神社」に山行の安全祈願。

(写真1・2)

・私は、趣味で集めている御朱印を賜りました。

(写真3)

・神社を後に、いよいよ山行。天気もよく畦道を軽やかに会話も弾みます。

(写真4)

(写真 5)



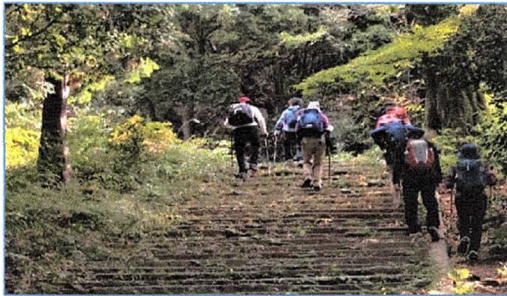
民家の横から入山

表登山道入口は、民家軒先の横からスタートであり、正面は猪被害防止のため鉄柵があり、ここから入山。

(写真 5)

- ・入山後、直ぐに急斜面を登りその先には石段がある。石段を上り詰めると妙見堂跡があります。 (写真 6・7)

(写真 6)



石段の上には「妙見堂跡」

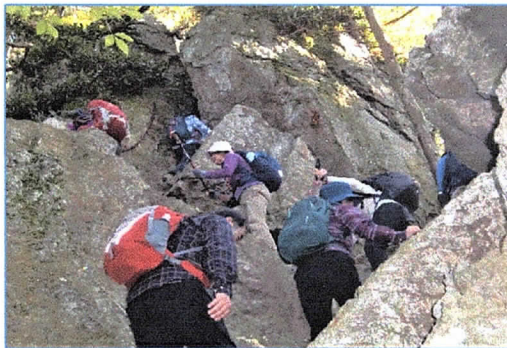
(写真 7)



「妙見堂跡」

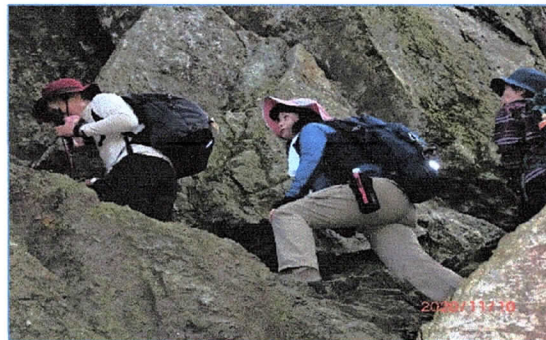
- ・石段や落ち葉の山道を進んでいくと突然に岩場あり。急に進むスピードが落ちる。岩と岩の間隔が広がり、下を見ないように怖々と進んでいきます。 (写真 8・9)

(写真 8)



下を見ないように、そろり、そろーり

(写真 9)

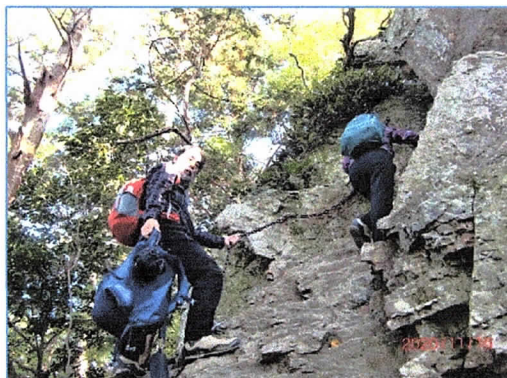


時には勇ましいポーズで！？

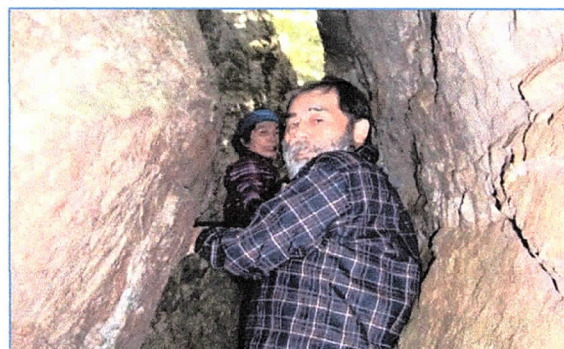
- ・途中から鎖場となり、その先には岩が割れた隙間となり、先頭の方は思わず「私行けるのかな〜」と悲鳴が飛ぶ。もう少しダイエットしておけばよかったというメンバーもあったが、一番厳しい人も通過できました。

(写真 11)

(写真 10)



そして、鎖が……



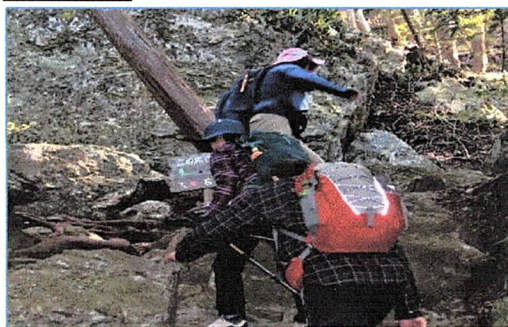
体をねじって「割岩」の間をくぐる

(写真 12)



分かれ道をどちらを選ぶか？

(写真 13)



右の声が飛び、急坂を仕方なく？

(写真 16)



展望台からの景色

(眼下に琵琶湖、奥が比叡山)

(写真 17)



展望台から参加者全員の撮影

- ・割岩を過ぎると分かれ道があり、先頭メンバーが左側の楽な道を行きかけるも、後ろのメンバーから急坂の方への声で又多くのメンバーが悲鳴。 (写真 12・13)
- ・そしてやっとの思いで三上山の山頂へ到着。 (写真 14)



山頂で笑顔のポーズで記念撮影

(写真 15)



昼食後も記念撮影

(余談)

- ・展望台で他のグループ(京都田辺山友会)と合流し、左の(写真 17)を撮ってもらう。本日の唯一全員(8名)の記念撮影。
どちらから来たのか尋ねられ、和歌山からと答えると和歌山に熊野古道があるのに、わざわざようこそ！と労いの言葉がありました。
- ・そして裏山道コースで下山。途中に「姥の懐」という突き出た岩があった。何でこんな名前かなあ〜とメンバーの疑問の声。
看板には、この地域では谷が深く突き出した岩を昔から「姥の懐」と呼び、他にも「むかで退治伝説」にちなんで「むかでの穴」とも呼ばれていると書かれていました。

(写真 18)



「姥の懐(うばのふところ)」

(写真 19)



「安土城跡」の説明看板

(写真 20)



階段登りで疲労困憊の人も…

(写真 21)



本丸跡で当時の思いを馳せ撮影

(写真 22)



惣見寺跡に残る三重塔

(写真 24)



「安土城跡」の御朱印

※「安土城跡」編

・安土城跡は標高 199m の安土山一帯にある織田信長の居城跡であり、3 年有余をかけ完成させた信長の夢跡。国指定の特別史跡です。

・「御上神社」から「安土城跡」へ車で約 30 分の移動。まず最初に「安土城跡」の説明資料に目を通す。

(写真 19)

なお、「まむし」が出ます、ご注意ください。安土城跡はペットを連れて入山できません。との注意書きもあり。

・入山料 700 円は高いと言いつつも、全員参加。入山するといきなり長い石段があり、高いお金払って何故こんな苦労しないといけないのかなあ〜と嘆く声が……。

(写真 20)

・約 30 分で石段を上り詰めたところに昔あった天守跡。当時のその姿は、6 階地下 1 階で最上階は金色、下階は朱色の八角堂となっており内部は黒漆塗り、そして華麗な障壁画で飾られていたとされる。と看板に記されていた。その思いを馳せ、記念撮影。

(写真 21)

・次は惣見寺跡を通過。そこには三重塔と二王門があり古びた佇まいが歴史を物語っていました。

二王門の前から本日最後の記念撮影。(写真 22・23)

(参考) 惣見寺は安土城築城(天正四年)の際、信長公が他所より移築し自らの菩提寺とした。信長の死後、安政元年、火災により本堂などを焼失。今は礎石のみが三重の塔の北側に遺る。と、看板に記されていました。

(写真 23)



二王門の前で本日最後の撮影

・「安土城跡」の御朱印も賜りました。(写真 24)

※最後に今回のコースは、滋賀県の観光名所である「三上山」「御上神社」「安土城跡」をめぐり、歴史との触れ合いの旅でした。

往復の高速道路の渋滞が玉に瑕ですが、秋を満喫し心を豊かにした山行の旅でした。